

# 理・工学部も女子いるよ

## 高校生に助言、偏見解く

「理系には女子学生がほとんどいない」「理系女子は就職や結婚が遅れる」。山形大は、こうした偏見を拭い去り、理学部や工学部の女子志願者を増やそうとする取り組みを今年度新たに始めた。理工系の女性研究者や女子大学院生が中学・高校を訪れ、直接、女子生徒たちに、研究の面白さなどを伝えている。

### 山大・女性研究者ら 志願者増へ

「研究テーマは、一番知りたいことにポイントを絞った方がやりやすいよ」  
3日午後、県立東根校学館高校（東根市）の理科室。新型コロナウイルス感染症防止用のパーティション越しに、山形大理工学研究所1年の山口芽衣さん(22)が、

さんは「周囲に同性が少ないと、理工系の学部に進むのを不安に感じる女子も多い。自分の体験を話して、一緒に考えてあげたい」と話す。理系クラスの滝口あゆ海さん(17)は「大学院にめちゃんと女性がいると分かって安心した」と、胸をなで下ろしていた。

◇  
女子生徒の理系進学を促すこうした活動を山形大は「ヤマガタ 夢☆未来Girls プロジェクト」と名付け、6月から始めた。同大の女性研究者が中高に出前授業することもある。

同プロジェクト代表の栗山恭直教授(60)は、女子生徒が、理工系への進学をためらう背景の多くは、相談できる先輩が少なく、本人や保護者の偏見や情報不足にあると考える。

同大男女共同参画推進室によると、同大理学部は5月1日現在、在学生901人中、224人は女子学生だ。男子ばかりと思われが



女子生徒との相談に乗る山大JCO IINのメンバー(3日、東根市中央南の県立東根校学館高校で)

ちだが、理学部で約4人に1人、工学部で約6人に1人は女子学生となる。  
さらに、同大のキャリアサポートセンターによると、2018年度の理、工学部生で、就職を希望した学生の就職率は男女問わず100%だった。  
栗山教授も「医療や看護以外の理系学部は、就職先がイメージしにくい、実際は就職や一般企業など多岐にわたる」と説明する。  
今年度は県内の中高4校ずつ、計8校での活動を予定しており、栗山教授は「研究の面白さや女性研究者の活躍を伝え、理工系に興味を持つ女子生徒たちの後押しをしていきたい」と話している。